

個にあった筆算表を活用し、十の位に繰り上がる筆算方法を身に付ける授業

なかよし5組(自閉症・情緒障害)特別支援学級 算数科学習指導案

指導者 吉野 有香

1. 単元名 1けたをかけるかけ算の筆算

2. 単元について

(1)教材観

本単元は、学習指導要領第3学年の2内容A「数と計算」A(3)「乗法」に示された内容を指導するために設定された単元である。

第2学年では、乗法の意味や計算の仕方を考えたり、九九の構成を活用し計算を工夫したり、計算の確かめをしたりすることなどの学習をしてきた。また第3学年では、 $\times 10$ と $\times 0$ の学習もした。

乗法の筆算は本単元が初めてとなる。この単元では、「①2位数や3位数に1位数をかける乗法の筆算の仕方を理解する。」「②乗法の計算が確実にでき、それを適用に用いること。」をねらいとしている。また簡単な計算は暗算でできることも理解し、生活の中で暗算で計算しようとする態度を育てていく。①ではかける数が1位数の場合は、数のまとまりに着目して計算していくことで簡単にでき、また計算方法を覚えることで暗算につなげていく。(例： 23×4 の場合… $3 \times 4 + 20 \times 4$ と考える)②では乗法が用いられる場面を理解できるように、子どもの身近な物を取り上げるようにし、実際の生活でも活用していくことが大切である。

今後本単元の学習は、第3学年「2けたをかけるかけ算の筆算」(2, 3位数) \times (2位数)のかけ算に発展し、第4学年「1けたでわるわり算の筆算」に繋がっていく重要な単元となるため、何度も繰り返し計算に取り組み、筆算方法を確実に身に付けられるようにしていく必要がある。

【教材の系統】

学年	単元名	学習内容	新しく学習すること (用語・記号)
1	おなじかずずつ	・かけ算, わり算の素地	
2	かけ算(1)	・かけ算九九の理解 ・2~5の段の九九の構成	・かけ算・ \times ・かけられる数 ・かける数・5の段 ・2の段・3の段・4の段
	かけ算(2)	・6~9の段, 1の段の九九の構成	・アレイ図・6の段 ・7の段・8の段 ・9の段・1の段
	九九のきまり	・九九の表のきまりを見出す	・(1位数) \times (2位数) (2位数) \times (1位数)の答えの見つけ方
3	九九の表とかけ算	・乗法が1増える(減る)ときの積の変化 ・(1位数) $\times 10$, $10 \times$ (1位数), 10×10 ・ $a \times 0$, $0 \times a$, 0×0 ・ $a \times \square = b$, $\square \times a = b$ の \square にあてはまる数の見つけ方	・かけ算のきまり ・ことばの式
	1けたをかけるかけ算の筆算	・(2, 3位数) \times (1位数)のかけ算の筆算 ・簡単な(2位数) \times (1位数)の暗算	・(1位数)をかける筆算
	2けたをかけるかけ算の筆算	・(2, 3位数) \times (2位数)のかけ算の筆算	・(2位数)をかける筆算
4	1けたでわるわり算の筆算	・(2桁) \div (1桁)で商が2桁になる筆算(余りあり, 桁ごとに処理する) ・(3桁) \div (1桁)で商が3桁になる筆算 ・(2桁) \div (1桁)で商が2桁になる暗算	・商 ・(1けた)でわる筆算

実態調査問題と解答	実態調査の考察									
<p>1. 次の計算をしましょう。(既習事項)</p> <p>①$3 \times 8 = 24$ ③$7 \times 6 = 42$ ②$10 \times 2 = 20$ ④$0 \times 4 = 0$</p> <table border="1" data-bbox="140 405 711 607"> <thead> <tr> <th colspan="2">解答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 児</td> <td>全問○</td> </tr> <tr> <td>B 児</td> <td>全問○</td> </tr> <tr> <td>C 児</td> <td>①②○ ③④無回答</td> </tr> </tbody> </table>	解答		A 児	全問○	B 児	全問○	C 児	①②○ ③④無回答	<ul style="list-style-type: none"> 2年生のかけ算九九の学習が身に付いている。 A 児 B 児は問題もよく見て取り組んでいる。 C 児は③④について見落としたと考える。または本児の特性から「見えていない」可能性もあるため、日頃から様子を見ていくことが必要である。 A 児は6～9の段の九九が正確に覚えられていないため、毎日行っているフラッシュカードでは誤答が多い。しかし、紙面の問題では答えの確認をすることで答えることができる。そのため今回も全答できたと考えられる。 	
解答										
A 児	全問○									
B 児	全問○									
C 児	①②○ ③④無回答									
<p>2. □にあてはまる数をかきましょう。(既習事項)</p> <p>①$3 \times \square = 21$(7) ②$6 \times 8 = \square \times 6$(8) ③$4 \times 6$は、$4 \times 5$より□大きい。(4) ④$2 \times 7$は、$2 \times 8$より□小さい。(2)</p> <table border="1" data-bbox="148 936 569 1151"> <thead> <tr> <th colspan="2">解答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 児</td> <td>全問○</td> </tr> <tr> <td>B 児</td> <td>全問○</td> </tr> <tr> <td>C 児</td> <td>①③④○ ②48</td> </tr> </tbody> </table>	解答		A 児	全問○	B 児	全問○	C 児	①③④○ ②48	<ul style="list-style-type: none"> A 児 B 児は問題もよく見て取り組んでいる。 C 児は$\times 6$を見落としたと考える。1問目同様日頃の様子を見ていくと共に、見落としがないように声をかけていく必要がある。 本単元の基礎となる第2学年のかけ算九九の仕組みが身に付いていると考える。今後もかけ算九九に毎日取り組んでいくことが大切である。 	
解答										
A 児	全問○									
B 児	全問○									
C 児	①③④○ ②48									
<p>3. 次の計算をしましょう。(既習事項)</p> <p>①$2 \times 4 + 1 = 9$ ③$7 \times 5 - 3 = 32$ ②$8 \times 4 + 3 = 35$ ④$9 \times 3 - 9 = 18$</p> <table border="1" data-bbox="140 1373 608 1576"> <thead> <tr> <th colspan="2">解答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 児</td> <td>①5 ②36 ③31 ④○</td> </tr> <tr> <td>B 児</td> <td>全問○</td> </tr> <tr> <td>C 児</td> <td>全問○</td> </tr> </tbody> </table>	解答		A 児	①5 ②36 ③31 ④○	B 児	全問○	C 児	全問○	<ul style="list-style-type: none"> B 児 C 児は暗算で解くことができた。 A 児もかけ算の答えや足し算引き算の筆算が書かれていなかったことから暗算で解いたと考えられる。答えが1多かたり1少なかたりしているので、暗算で解くことよりも筆算やかけ算の答えを書いてから、2回目の計算をするなどの、確実に正解できる方法を一緒に考えていく必要がある。 	
解答										
A 児	①5 ②36 ③31 ④○									
B 児	全問○									
C 児	全問○									
<p>4. 76×6のひっ算の仕方について、□にあてはまる数をかきましょう。(未習事項)</p> <p>① 一の位は、四六24、一の位に□<u>4</u>をかいて、2くり上げる。</p> <p>② 十の位は、四七28、くり上げた2で□<u>30</u>。答えで304になる。</p> <table border="1" data-bbox="189 1850 322 2002"> <tr> <td style="text-align: center;">76 $\times 4$ 304</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="461 1800 798 2020"> <thead> <tr> <th colspan="2">解答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 児</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>B 児</td> <td>無回答</td> </tr> <tr> <td>C 児</td> <td>無回答</td> </tr> </tbody> </table>	76 $\times 4$ 304	解答		A 児	無回答	B 児	無回答	C 児	無回答	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読み、解答することへの苦手意識があるため、文章量を見て読まなかったり、とぼして次の問題に取りかかったりしたと考える。また普段の様子から、文章を読解し、問われていることを理解するのが難しい。そのため解答することができなかつたと考える。
76 $\times 4$ 304										
解答										
A 児	無回答									
B 児	無回答									
C 児	無回答									

<p>5. つぎの計算をしましょう。(未習事項)</p> <p>①$90 \times 7 = 630$ ②$400 \times 8 = 3200$</p> <p>③ ④ ⑤</p> $\begin{array}{r} 21 \\ \times 3 \\ \hline 63 \end{array}$ $\begin{array}{r} 69 \\ \times 7 \\ \hline 483 \end{array}$ $\begin{array}{r} 36 \\ \times 2 \\ \hline 72 \end{array}$ <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">解答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 児</td> <td>①②無回答 ③23 ④665 ⑤312</td> </tr> <tr> <td>B 児</td> <td>①②③⑤○ ④123</td> </tr> <tr> <td>C 児</td> <td>①②③⑤○ ④420</td> </tr> </tbody> </table>	解答		A 児	①②無回答 ③23 ④665 ⑤312	B 児	①②③⑤○ ④123	C 児	①②③⑤○ ④420	<ul style="list-style-type: none"> • A 児は全問不正解ではあったが、何とかして解こうとする姿が見られた。③～⑤では一の位同士をかけ算し、十の位はそのまま下ろしている。④を見ると九七七83になっている。かけ算九九に毎日取り組み、(2位数)×(1位数)の計算方法を繰り返し練習していくことが重要だと考える。 • B 児は④だけ九七63の6を十の位の6と足してしまっていた。そのほかの問題は繰り上がりもできていたため、正確な計算に繋がる計算方法を学習する必要がある。 • C 児は60×7の計算を行ったと考えられる。最後まで意識して取り組んでいけるように、声をかけていくことが必要だと考える。また、正確な計算方法が身に付くように、繰り返し練習問題に取り組む必要がある。
解答									
A 児	①②無回答 ③23 ④665 ⑤312								
B 児	①②③⑤○ ④123								
C 児	①②③⑤○ ④420								
<p>6. つぎの計算をしましょう。(未習事項)</p> <p>① ② ③</p> $\begin{array}{r} 431 \\ \times 2 \\ \hline 862 \end{array}$ $\begin{array}{r} 719 \\ \times 4 \\ \hline 2876 \end{array}$ $\begin{array}{r} 802 \\ \times 5 \\ \hline 4010 \end{array}$ <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">解答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 児</td> <td>①432 ②7127 ③8010</td> </tr> <tr> <td>B 児</td> <td>①○ ②746 ③410</td> </tr> <tr> <td>C 児</td> <td>①③○ ②無回答</td> </tr> </tbody> </table>	解答		A 児	①432 ②7127 ③8010	B 児	①○ ②746 ③410	C 児	①③○ ②無回答	<ul style="list-style-type: none"> • A 児は問5と同様の方法で解いている。②③は、位取りができていないため、縦線が入っていて、位が明確になっている教材を活用しながら取り組んでいくことが重要と考える。 • B 児は3けたから繰り上がりの計算ができなくなった。2けたの時に繰り上がりを書く場所を押さえておく必要がある。 • C 児は①の問題では$431 + 431$と計算している可能性がある。かけ算の仕組みは理解できていると考える。しかし、数が大きくなると取り組むことを諦めてしまうのではと推測できる。また、③では位取りが全くできていなかったため、位取りを意識して取り組んでいける方法を考える必要がある。
解答									
A 児	①432 ②7127 ③8010								
B 児	①○ ②746 ③410								
C 児	①③○ ②無回答								
<p>7. 1本165円の牛にゆうがあります。この牛にゆうを5本買うと何円ですか。(未習事項)</p> <p>式 $165 \times 5 = 825$ 答え 825円</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">解答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 児</td> <td>式 $165 + 165 + 165 + 165 + 165 =$ 答え 無回答</td> </tr> <tr> <td>B 児</td> <td>式・答え 無回答</td> </tr> <tr> <td>C 児</td> <td>式 ○ 答え 無回答</td> </tr> </tbody> </table>	解答		A 児	式 $165 + 165 + 165 + 165 + 165 =$ 答え 無回答	B 児	式・答え 無回答	C 児	式 ○ 答え 無回答	<ul style="list-style-type: none"> • A 児はかけ算の仕組みは理解していると考えられる。また、余白にはたし算の筆算も書かれていた。一生懸命計算をしている形が見えたため、「かけ算の便利さ」「かけ算の筆算の速さ」に気付き、進んで取り組めるようにする必要がある。 • B 児は時間が足らずに取り組めなかった。時間内に問題を解けるように、位取りと繰り上がりを定着することが必要である。 • C 児は○の△倍という仕組みは理解しているので、筆算方法を理解し習得することが必要である。
解答									
A 児	式 $165 + 165 + 165 + 165 + 165 =$ 答え 無回答								
B 児	式・答え 無回答								
C 児	式 ○ 答え 無回答								

(3)指導観

本単元では、1けたをかけるかけ算の筆算について、その計算方法を考えたり説明したりすることを通して、(2, 3位数)×(1位数)の計算の筆算や、簡単な(2位数)×(1位数)の計算の暗算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を培うことをねらいとする。

また本単元を通しての手立ては以下の4点である。

(ア) 子どもの身の周りにある物や想像しやすい物を使う。

子どもが想像しやすく、子どものモチベーションを上げるために教科書の素材だけではなく、イラストや本物を使い、日常の1コマを切り取ったような状況を作成していく。また、ICT機器を活用し、動きを加えることで視覚的にも記憶に残りやすいようにする。

(イ) 子どもの発言を学習に生かし、学習中の子どもの発言量を増やす。

学習中だけではなく、日常生活でも子どもの発言やつぶやきを聞いたり、取り上げたりすることで学習素材のヒントにしていく。本単元では、お金やお菓子をを使って学習を進めていく。また、子どもの言葉から学習問題やまとめを作ったり、考え方を共有したりする時間を丁寧に扱っていく。

(ウ) 操作方法を徹底する。

筆算方法を定着させるために、①(半)具体物の操作&説明→②念頭操作&説明→③式&説明の計算を行っていく。①では、毎時間違う素材を使い、実際に子どもたちが操作していくことで、操作方法についての説明ができるようにする。使う素材については、指先の力が弱い子どもがいたり、並べているときに転がってしまったりすることが考えられるため、「重みがある」「転がらない」「つかみやすい」ものとして、お金の模型や子どもが普段食べているチョコレート菓子を使用していく。また、説明方法については、定型文を子どもの言葉で作成することで、②の念頭操作&説明に繋げていく。最後に式(筆算)で解いていく。その際に繰り上がりでつまづくことが考えられるため①②の学習を丁寧に繰り返し行っていく必要がある。

(エ) 個に応じた筆算表を活用する。

筆算表の共通点としては、「位取りの枠」「繰り上がりの数字を書く場所」である。「位取りの枠」は、視覚的なことも考慮し、ノートと同じ線の色(水色)を使用する。また、枠の大きさはノートよりも大きめにすることで、小さく書くことが苦手な子どもにも対応したり、自分の書いた数字が見やすく、正確に計算ができるようにしたりしている。「繰り上がりの数字を書く場所」では、繰り上がりのある足し算の筆算とは全く違う場所に書くため、繰り上がりを書く場所を薄い赤色で明確にしておくことで、違いに気付き、書く場所を意識して取り組めるようにする。個に応じた筆算表は、「繰り上がりの数字を書く場所の色づけ(薄い赤色)」「繰り上がりの数字を書く場所が白黒のもの」「繰り上がりの数字を書く場所が□」の3パターンである。子どもが自分の使いたい物を選び活用することで、個別支援を充実させていく。

さらに、本時では以下の手立てを行っていく。

[見いだす]

□既習の内容や方法を振り返る場面を設定する。

①前時の筆算のきまりを振り返る。

本時は十の位への繰り上がりの筆算方法を身に付けることをねらいとしている。そこで前時で取り組んだ 12×4 の筆算を振り返る。この時に特に重点的に行うことは、筆算のきまり「1の位から計算する」「 $12 \times 4 = 2 \times 4 + 10 \times 4$ 」ということである。既習事項の足し算と引き算の筆算でも必ず1の位から計算をしているため、まずはその再確認を行っていく。次に行うことは、【2が4こ、10が4こ。だから48】となる場所をおさえておくことで、実態調査での誤答($21 \times 3 = 23$)が減ると考える。

□児童が課題を明確にすることができるよう、疑問を整理して焦点化していく。

②身近にあるものを素材として扱うことで、子どもが想像しやすいようにする。

授業へのモチベーションを上げるために、チョコレート菓子を素材とする。素材提示の時には、実際に子どもにチョコレート菓子を見せ、最後に数を数えることを伝える。本時で使うチョコレート菓子は、箱の大きさにチョコレート菓子が入りやすいことも考慮して、いくつか候補をあげ、子どもの意見をから1番人気だった菓子を使っていく。実際にチョコレート菓子を数える時には、1つの入れ物に全部出し、数の多さを視覚的にも感じられるようにする。しかし、数を数える時には、不便なことに気付けるように声をかける。そこで、「10のまとまりが7つとバラが2つ。だから72個」と、すぐに見てわかるように、チョコレート菓子が10個入る箱を使用する。

[自分で取り組む]

□児童の一人一人の様子を把握し、早めに解決できた児童や、つまづいてしまっている児童に対する次の手立てを準備する。

③繰り上がりの数字を書く場所が明確(薄い赤色)になっている筆算表を活用する。

足し算と引き算の筆算では、筆算を行う際に位がずれてしまうことが多い。特に繰り上がりの際には、繰り上がった数字を書いた時に、どの位(例:十の位なのか、百の位なのか)に繰り上がったかわからなくなってしまう計算ミスが見られた。本単元では、かけ算の筆算のため、繰り上がりをした数字を記す場所が今までと違う。また繰り上がった数字が大きすぎると計算ミスが今まで以上に増えることが考えられる。そのため、繰り上がりの数字を書く場所が明確になっている筆算表を活用す

る。筆算表の内容は、「マスが大きい」「繰り上がった数字を書く場所が明確」になっている。マスの大きさは、ノートよりも大きいマスを活用していく。

[広げ深める]

□児童が自分の考えを伝える場面を設定する。

④1人ずつ自分の考えを伝える。

「自分で取り組む」の後、子ども同士で話す時間を設ける。話し合いの時間では、友達の考えに触れ自分の解答に自信をもったり、反対に誤答に気付いたり、自分の考えを確かなものにしたることができるようにする。その時には、自分の考えを説明するポイントである【まず】【次に】【だから】などのつなぎ言葉を貼っておくことで友達にも説明しやすいようにする。ノートに書く時にはうまく書けない子どももいるため、子どもの考えを聞き、一緒に説明文を作成していく。友達に伝えた後は教師に伝えることを目標とし、1人ずつ自分の考えを発表する。その際教師の言葉数が多くならないように意識し、最後に「なるほど!」と納得することで、子どもが「説明できる」「先生を納得させられた」と少しでも自信をもてるようにしていく。

[まとめ上げる]

□児童が学んだことを確実に身に付けるために、練習問題等に取り組んだり、「見方・考え方」を今後の学習や生活にどのように生かすか考えたりする場面を設定している。

⑤「じゃあ問題」を解いた後、適用問題に取り組む。

学習した筆算方法で他の問題(14×3)も解けるのか筆算表を使ってもう一度解く。他の数値で解けることを実感し適用問題に取り組み、十の位に繰り上がる筆算方法の定着を目指していく。この時の筆算表は自分で使いたい表(「繰り上がりの数字を書く場所の色づけ(薄い赤色)」「繰り上がりの数字を書く場所が白黒のもの」「繰り上がりの数字を書く場所が□」の中から1つ)を選んで取り組むことで、チャレンジする気持ちを大切にしていく。

3. 単元の目標

【知識・技能】(2, 3位数)×(1位数)の計算の仕方を理解し、その計算を筆算や暗算でできる。

【思考・判断・表現】(何十・何百)×(1位数)の計算の仕方を、10や100を単位として考えることができる。

(2, 3位数)×(1位数)の計算の仕方を、数の仕組みや計算のきまりをもとに考えることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】(2, 3位数)×(1位数)の計算方法を考えようとする。

筆算や暗算のよさに気付く。

4. 全体指導計画(12時間扱い)

時	○本時の目標 ・活動内容 【評価】(方法)	指導形態
1	○(何十・何百)×(1位数)の立式をして、計算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。 ○(何十・何百)×(1位数)を、10や100を単位にして九九の計算に帰着させて計算することができる。 ・20×3の式を立て計算の仕方を具体物を使って考える。 ・200×3の式を立て計算の仕方を具体物を使って考える。 【知・技】10や100を単位として(何十・何百)×(1位数)の計算ができたか。(ノート)	一斉個別
2	○(何十)×(1位数)を、(十)×(1位数)と(何)×(1位数)に分けて計算することができる。 ・12×4を10と2に分けて10×4, 2×4に分けて計算する。 ・13×4を10と3に分けて10×4, 3×4に分けて計算する。 【知・技】12×4の計算の仕方を考え、計算することができたか。(発言・ノート)	一斉個別
3	○繰り上がりのない(2位数)×(1位数)を筆算で計算することができる。 ・筆算のきまり「位をたてにそろえて書く」「一の位からじゅんに計算する」を知る。 ・筆算の仕方を説明する。 【知・技】12×4の筆算の仕方を考え、筆算で計算することができたか。(発言・ノート)	一斉個別
4 本時	○十の位に繰り上がる(2位数)×(1位数)を筆算で計算することができる。 ・24×3の計算で十の位に繰り上がる時の筆算方法を考え、解く。 ・筆算の仕方を説明する。 【知・技】十の位に繰り上がる(2位数)×(1位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算するこ	一斉個別

	とができたか。(ノート)	
5	<p>○百の位に繰り上がる(2位数)×(1位数)を筆算で計算することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24×3の計算で百の位に繰り上がる時の筆算方法を考え、解く。 ・筆算の仕方を説明する。 <p>【思・判・表】百の位に繰り上がった数の処理を部分積をもとに説明することができたか。(発言・ノート)</p> <p>【知・技】百の位に繰り上がる(2位数)×(1位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができたか。(ノート)</p>	一斉 個別
6	<p>○繰り上がりが2回の(2位数)×(1位数)を筆算で計算することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・43×6の計算で繰り上がりが2回ある時の筆算方法を考え、解く。 ・計算方法を説明する。 <p>【思・判・表】十の位にも百の位にも繰り上がる(2位数)×(1位数)の筆算の仕方を考えたり、説明したりしていたか。(ノート・発言)</p> <p>【知・技】繰り上がりが2回ある場合の筆算が正しくできたか。(ノート)</p>	一斉 個別
7	<p>○学習内容を確実に身に付けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題を解く。 <p>【知・技】既習事項を生かして、練習問題を解くことができたか。(ノート)</p>	個別
8	<p>○(2位数)×(1位数)の筆算の仕方をもとに、(3位数)×(1位数)の筆算の仕方を考え、計算することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・212×3の計算を筆算で解く。 ・計算方法を説明する。 <p>【知・技】繰り上がりのない(3位数)×(1位数)の筆算ができたか。(ノート)</p>	一斉 個別
9	<p>○既習の筆算の仕方をもとに、繰り上がりや空位のある(3位数)×(1位数)の筆算の仕方を考え、計算することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・387×4の計算で繰り上がりが3回ある時の筆算方法を考え、答えを求める。 ・406×7の計算で空位のある時の筆算方法を考え、答えを求める。 <p>【思・判・表】既習の筆算の仕方をもとに、繰り上がりや空位のある(3位数)×(1位数)の筆算の仕方を考えたり説明したりしたか。(ノート・発言)</p> <p>【知・技】(3位数)×(1位数)で各位に繰り上がりがある場合や、空位がある場合の筆算ができたか。(ノート)</p>	一斉 個別
10	<p>○既習内容を確実に身に付けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(3位数)×(1位数)の練習問題を解く。 <p>【知・技】既習内容を生かして、練習問題を解くことができたか。(ノート)</p>	個別
11	<p>○積の見当づけを生かして、簡単な(2位数)×(1位数)を暗算で計算することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算カードを使って簡単な(2位数)×(1位数)の暗算方法を知る。 <p>【態】簡単な(2位数)×(1位数)の暗算の仕方を身に付けて活用しようとしていたか。(観察)</p> <p>【知・技】簡単な(2位数)×(1位数)を暗算で計算できたか。(ノート)</p>	一斉 個別
12	<p>○学習内容を理解し、解くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題を解く。 <p>【知・技】(2位数)×(1位数)や(3位数)×(1位数)の筆算の仕方を理解していたか。(ノート)</p> <p>【知・技】(2位数)×(1位数)や(3位数)×(1位数)の筆算ができたか。(ノート)</p> <p>【思・判・表】54×9の筆算の間違いの説明の仕方を活用して、68×4の筆算の間違いを説明することができたか。(ノート)</p> <p>【知・技】(3位数)×(1位数)の適応問題を解くことができたか。(ノート)</p>	個別

5. 本時の指導(4/12)

(1) 目標

○十の位に繰り上がる(2位数)×(1位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。

【知・技】

A児・B児：カラーの筆算表を使い、十の位に繰り上がる(2位数)×(1位数)の計算ができる。

C児：位に気をつけながら繰り上がり部分が□になっている表を使い、十の位に繰り上がる(2位数)×(1位数)の筆算ができる。

学習過程 (時配)	学習活動と内容 ◎教師の発問 ・子どもの反応	○支援 ☆評価(方法)	資料
見出す (10分)	<p>1. 本時の学習内容を知る。 ①振り返り ②やってみよう ③みんなで考えよう ④練習問題</p> <p>2. 前時の振り返りをする。 12×4の筆算方法の確認をする。 ・まず一の位から計算するよ。 ・2×4で8。 ・次に十の位を計算するから、十の位は4。 ・十の位の4は10が4こってことだよ。</p> <p>3. 本時の素材を提示し、確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>チョコが24個入った袋が3袋あります。チョコは全部で何個ですか。</p> </div> <p>・おいしそう。食べたいな。 ・24が3袋あるから、24×3だよ。 ・筆算でとけそう。</p> <p>4. 本時の学習問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(くり上がりのある) かけ算の筆算は、どのようにやるのか。</p> </div>	<p>○見通しをもって学習に取り組めるように、本時の流れを確認し、提示する。</p> <p>○計算の順序をおさえる。 ○十の位の計算は10×4ということを確認する。</p> <p>○本物のチョコレート菓子を提示することで子どものモチベーションを上げる。 ○子どもの言葉を取り上げ、共感しながら学習を進めていく。 ○同じ数のものが3袋あるため、かけ算になることに気付けるよう声をかける。 ○筆算で計算できることに気付けるように、声をかける。</p> <p>○子どもの言葉から学習問題を作る。</p>	<p>本時の流れ</p> <p>掲示物 「筆算の順序」</p> <p>チョコレート菓子 問題文</p>
自分で取り組む (5分)	<p>5. 問題を解く方法を見つける。 ・この表を使えば、昨日と同じように解けそう。 ・かけ算をしたら、たし算をするんだよね。</p> <p>6. 筆算の考え方の表を活用し、答えを出す。</p> <p>〈式〉 $24 \times 3 = 72$ 〈答え〉 72こ</p> <p>誤答 ① $24 \times 3 = 92$ ② $24 \times 3 = 612$</p>	<p>○()の部分は、前時との違いの確認の際に書くため、1行空けておく。 ○筆算の考え方の表を配る。 ○一の位から計算することをおさえる。</p> <p>○A児：一の位の計算と十の位の計算の式を確認し、かけ算の答えが合っているか、たし算の答えが合っているかを再度確認するよう声をかける。 ○B児：計算の順番や、最後にたし算をすること等を確認し、自力で解けるように支援をする。 ○C児：計算ミスや見落としがないように、声をかける。 ○友達に説明をすることができるよう、計算の順番や仕方を聞く。</p>	<p>筆算の考え方の表</p>

<p>広げ深める (20分)</p>	<p>7. 相談タイムをする。(3分) ・まず一の位から計算するから四三12になったよ。 ・次に十の位だから、20×3で60になった。 ・最後に12と60を足して72になったよ。</p> <p>8. 筆算の考え方の表を使って、全体で筆算方法を確認をする。 ・まず一の位から計算します。 ・次の十の位は、20が3つ分だから、20×3です。 ・最後に12と60を足して72になります。 ◎昨日の問題と違う所はどこですか？ ・昨日の一の位の答えは8だったけど、今日は12になるよ。 ・一の位の計算だけど、答えは10の位までいってる。 ・繰り上がりがある。 ・繰り上がる1は、どこに書くの？</p> <p>9. 繰り上がりを書く場所を知り、覚える。 ・足し算の筆算と繰り上がりの書く場所が違う。</p> <p>10. 実際にチョコレート菓子を並べて数を数える。 ・10のまとまりが7つとバラが2つで72になりました。 ・1つ1つ数えるのが大変だった。 ・時間もかかった。 ・だからかけ算を使うと便利なんだね。</p> <p>11. 「じゃあ問題」を解く。 14×3</p>	<p>○相手の話を集中して聞くために、話している人に注目するように声をかける。 ○順序よく説明できるように「説明のポイント」を掲示する。</p> <p>○筆算の考え方の表を使って答えを確認する。 ○筆算方法の順序をその都度紙に書いていくことで、次時以降でも活用しやすいようにする。</p> <p>○繰り上がりがあることに気づけるように、前時の振り返りの紙を近くに置く。 ○本時の学習問題に「くり上がりがある」を付け足す。</p> <p>○カラーの筆算表を配り、書く場所を伝える。</p> <p>○視覚からも理解できるように、10マスの箱を活用する。 ○1つ1つ数えることの大変さを感じ、かけ算の良さに気付けるようにする。</p> <p>○筆算表を使い、同じ筆算方法でできるか再確認をする。 ☆十の位に繰り上がる(2位数) \times (1位数)の筆算の仕方を理解し、筆算で計算することができるか。(ノート)</p>	<p>掲示物「説明のポイント」</p> <p>拡大筆算の考え方の表</p> <p>カラーの筆算表 拡大筆算表 (カラー)</p> <p>10マスの箱 チョコレート菓子 チョコレート菓子を入れる箱 掲示物「さんすうのせかい」</p> <p>筆算表 (カラー・白黒・繰り上がり部分が□) 拡大筆算表 (カラー)</p>
<p>まとめあげる (10分)</p>	<p>12. まとめをする。 繰り上がりを書くところを確認する。 ・十の位の下に書くよ。 ・十の位を計算した答えと足すよ。</p> <p>13. 適用問題を解く。 ①$19 \times 5$ ②$15 \times 6$</p>	<p>○筆算表を見ながら、再度確認をする。 ○友達発言を繰り返すことで、1人1回は発表できるようにしていく。 ○子どもの言葉でまとめの文を作る。</p> <p>○数字の書いてある筆算表を3種類用意し、自分で選んで問題を解けるようにする。</p>	<p>筆算表 (カラー・白黒・繰り上がり部分が□)</p>

くり上がりのあるかけ算の筆算は、
 ①十の位の下に数字を書く。
 ②十の位を計算した答えを足す。
 とできる。

